



在宅患者の処方箋に遅滞なく対応する

第1回在宅連携薬局連絡会総会

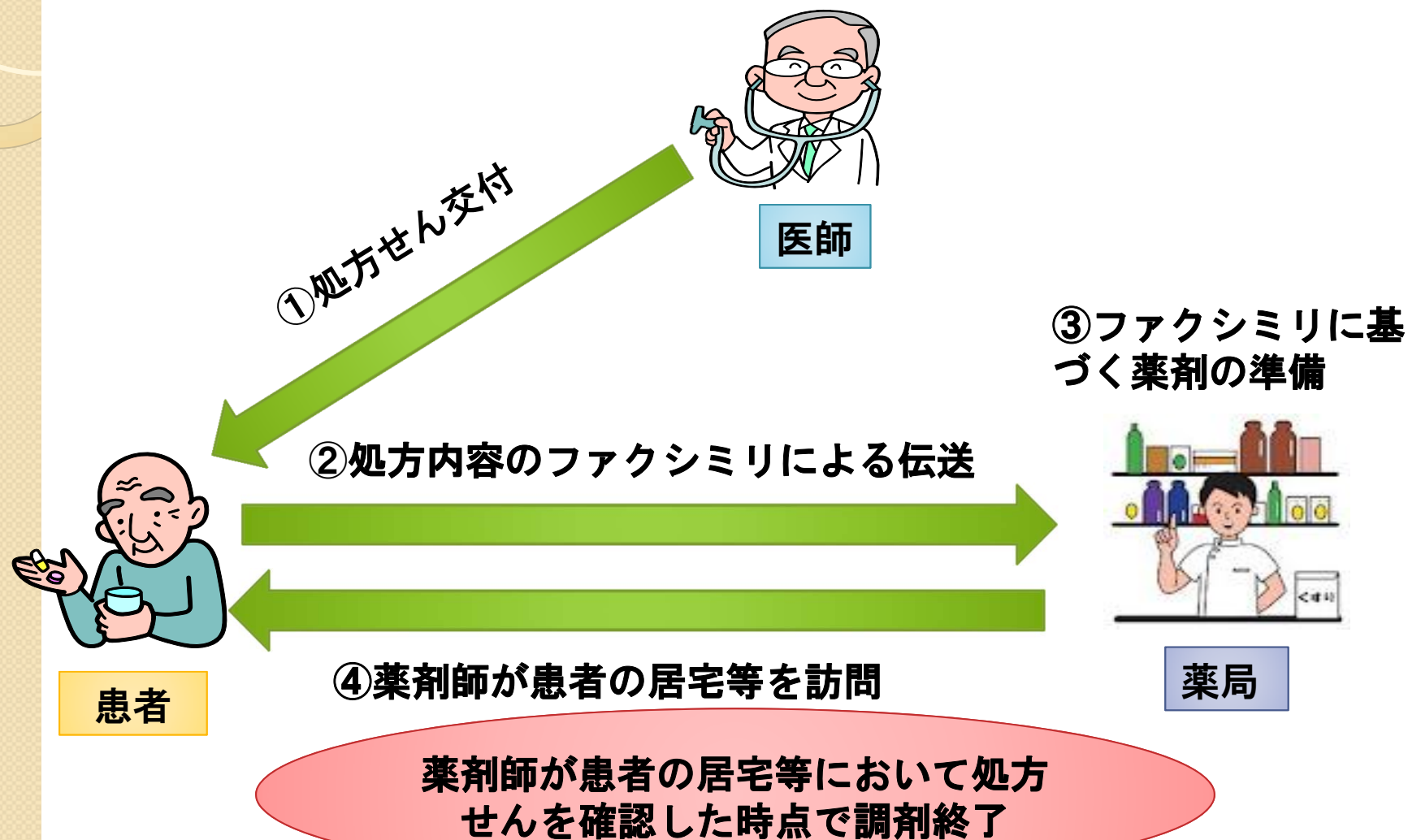
2012年1月19日

報告内容

- スムーズに対応する為に検討した内容報告
- 遅滞無く対応班が考えた、あったらいいなと思う方法

現行制度による処方～調剤の流れ

(医薬企第90号)



スムーズ対応障害要因

処方せんの流れをスムーズにする必要がある。



薬が患者の手に渡るのをスムーズにする必要がある。

薬局⇒患者も大きな問題であると思うが365日安心と重複する問題であったり、薬局の状態で対応が異なる為、患者⇒薬局メインで検討させて頂きました。

処方せん受け渡し困難例の対処案

患者



薬局

【スムーズ対応阻害要因】

- ・ 独居等により処方せんを薬局へ持っていく事ができない
- ・ F A Xが無い
- ・ F A X操作ができない（認知等）



処方せんは信書に当たる為、メール便利用不可。郵便なら可。

【対処案】

- ① F A Xが無い場合は、原則 F A X 購入
- ② 医療機関等が薬局へ F A X 送付
- ③ メール便集荷サービスによる原本送付
(業者に処方せんを家まで取りに来てもらい郵送)
- ④ 薬局が患者宅へ出向き処方せん原本を預かり薬局へ戻り調剤、訪問
- ⑤ スマートフォンによる F A X 送付
(アプリを使えば画像撮影した処方せんを F A X で送る事ができる。)

処方せん受け渡し対処案の問題点と解決策、追及点

対処案	医療機関等が薬局へ処方せん複写をFAX送付	メール便集荷サービス利用	薬局が原本を取りに行く	医師や家族がスマートフォンからFAX送付
問題点	<ul style="list-style-type: none"> 患者の許可無く処方せん複写を薬局へFAXするのは問題となり得る。(患者誘導になり兼ねない) 完全に認められている行為ではない為、制度上グレーゾーンである。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報なので取り扱いに問題がある。 集配、発送なのでスムーズに対応とは言えない 	<ul style="list-style-type: none"> 薬局の負担増 往診終了後に往診終わったという薬局への連絡が必要(医療機関の負担増) 	<ul style="list-style-type: none"> アプリが有料であったりする。 医療機関がFAX送付と同様な事が想定される。(患者誘導) スマートフォン取り扱いに慣れる必要がある(負担増)
<p>世話人会でメール便は不可と結論</p>				
解決策 追及点	<ul style="list-style-type: none"> 契約書に処方せんの取り扱いについての同意の文を盛り込み同意を得てから行う。 誘導とならないよう、市内の薬局リストやマップを作成し、患者、家族が薬局を選定しやすい体制構築。 有効例を示して制度上グレーを白にしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 定時処方等で急ぎでない場合には良いかもしれないが、個人情報の問題が解消されない。 メール便集荷を呼べるぐらいならFAX操作可能か。誰かに集荷手配を頼むならその方にFAX送付依頼した方が早い。 	<ul style="list-style-type: none"> 制度上問題が無い。薬局と患者宅が近ければ有効かつ正確。 	<ul style="list-style-type: none"> アプリ費用を利用患者に一定額負担してもらう 医療機関等がFAX送付と同様の解決策を検討しなければならない。

iphoneアプリリーフレット（案）

家族以外が代行して送付の場合、個人情報の取り扱いになるので承諾書が必要。

在宅でのスマートフォン活用について



スマートフォンのカメラで撮影した処方せん等を薬局へFAX送信する事が可能です。
ほんの1例ですが、1日1通無料送信できるiPhoneアプリを御紹介させていただきます。

FAX設備が無い
在宅患者

FAXの操作がで
きない方



・処方せんのやり取りについては予め患者の許可を得ておく必要があります。
・制度上認められている処方内容伝達方法は処方せん原本を薬局持参もしくは、ファクシミリ電送となっております（医薬企90号）
H.24.1現在

iPhoneのアプリ紹介リーフレット（案）

スマートフォンのアプリを使うと対象をカメラで撮ってその画像をFAX送信することができます。

iPhoneからFAX送信する方法

準備編

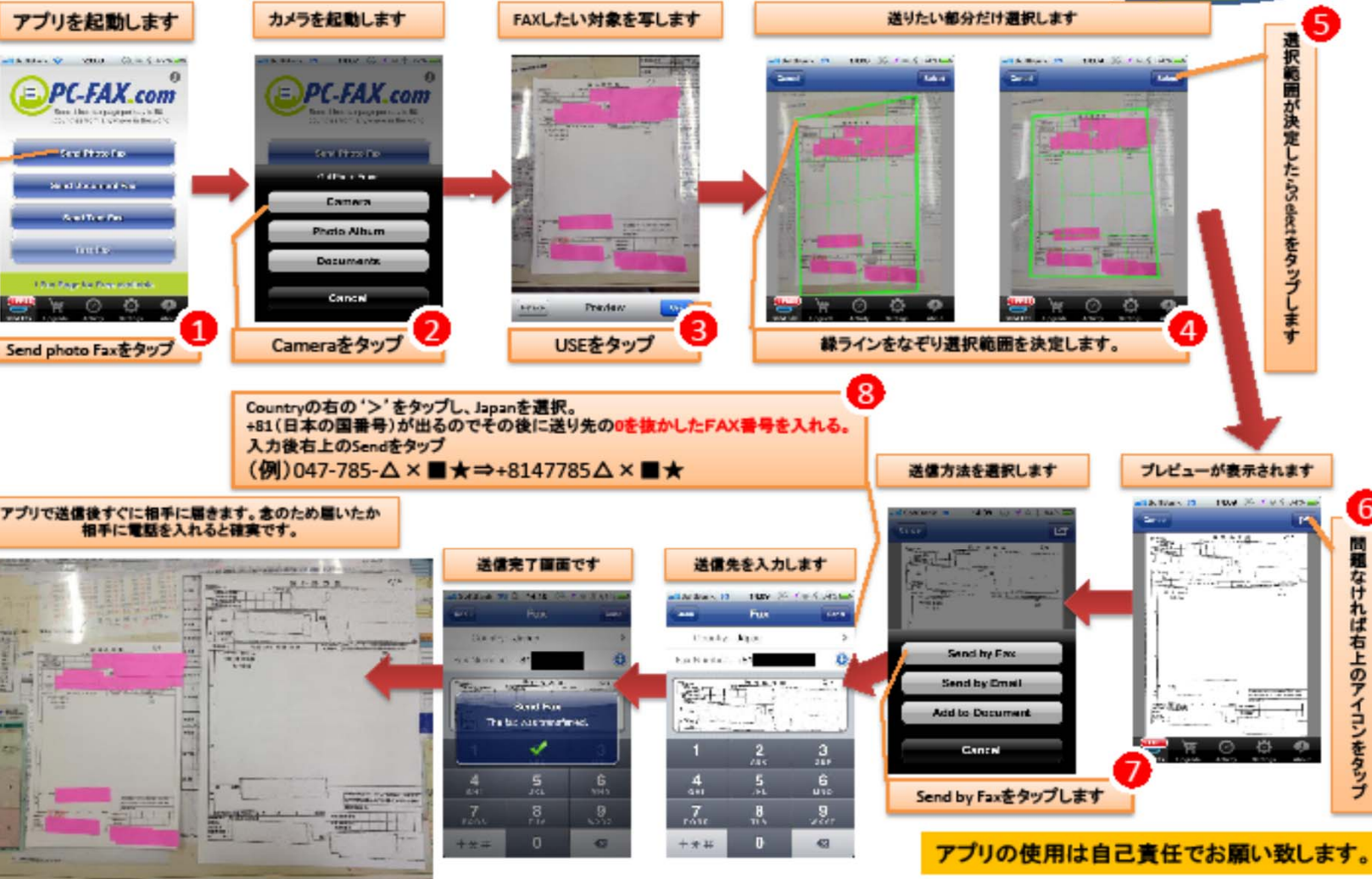


アプリの使用は自己責任でお願い致します。

iPhoneからFAX送信する方法

アプリ使用編

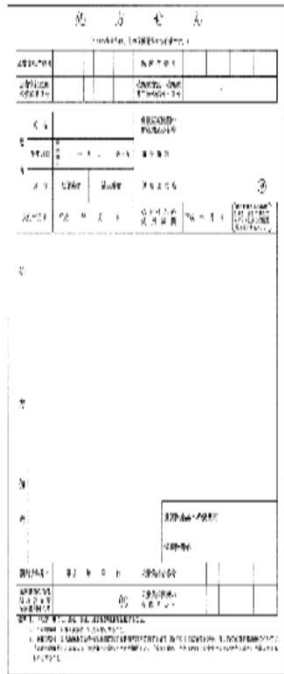
1日1通が無料です。それ以上は課金しなければ送れません。



遅滞なく対応する為の患者向リーフレット（案）

往診で医師から処方せんが発行されたら

案



- ・調剤薬局に処方せんを持って行くかFAXをして調剤してもらって下さい。
- ・薬局で薬をもらって下さい。



調剤薬局

- ・家族の方やヘルパー等代理の方が調剤薬局に行く事が出来ない場合はご相談下さい。
- ・処方せんは発行日を含めて4日以内に薬局に原本を持参して下さい。
- 処方せんの原本を忘れずにお持ち下さい。

忘れず薬局へ伝達されるようなリーフレット作成。処方せんの流れを具体的に示した。

- 【薬剤師の訪問がないパターン】 1種類
- 【薬剤師の訪問があるパターン】 3種類

- ・FAX送信できる
- ・家族や代理の方が原本を持って来れる
- ・薬局スタッフが原本を取りに行く

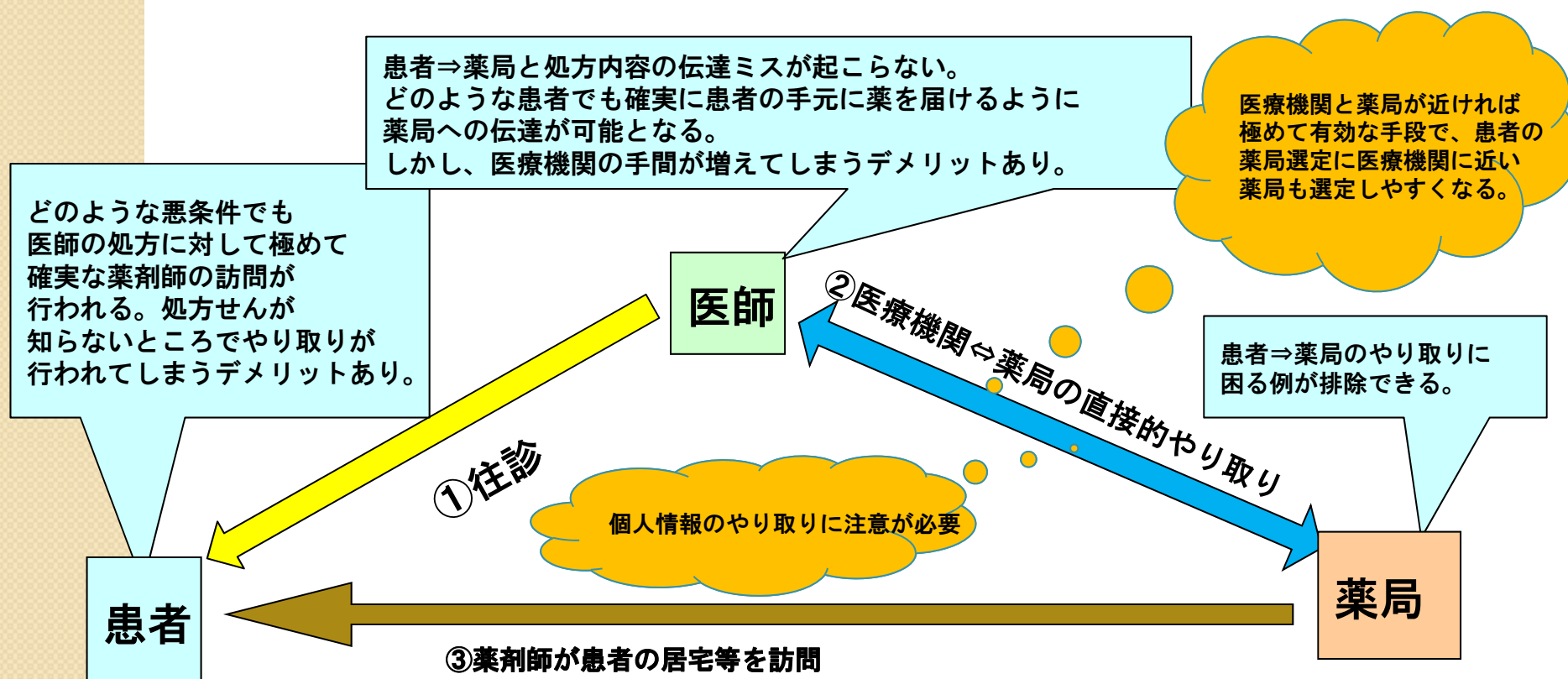
起こりうる事を注意書きで記載した。今後は、患者さんが事情に沿った伝達方法を患者さんが選べるよう選択肢を列挙した物を作成予定。（薬局の状態に対応できる、できないがあると思うので薬局に相談してから決める流れで検討中）

報告内容

- スムーズに対応する為に検討した内容
報告
- 遅滞無く対応班が考えた、あったらいいなと思う方法

障害要因を排除する他の案①【制度を変える視点】

ある一定の条件（独居認知・・・等）で処方せんの受け渡しが著しく困難な場合、患者同意の下医療機関⇒薬局という直接的な処方せん原本のやり取りが認められれば諸問題が解決できる例があると予想される。院外処方せんの根本的考えに反しているという点があるが、在宅処方せんの対応をスムーズかつ確実にするという点では、患者にとって有益と思われる。障害要因を排除するには、制度を変える視点も必要と思われる。



阻害要因を排除する他の案②【在宅専門薬局の設置】

既存の地域資源を有効活用するという、あおぞら診療所の考えとは異なるかもしれないが地域で新たに在宅専門薬局を作り在宅のほとんどを集約するというのも一つの考えかもしれない。これは、多数の問題（利益、薬局間で在宅に対する取り組みに偏りが生じる・・・etc）があると思うが実現できれば地域の薬局も在宅に組みやすくなり、諸問題も解決できるのではないだろうか。また、このような核となる薬局があるという事が言えれば患者の安心感へと繋がるのではないだろうか。

地域薬局、患者にも安心感を与えられる。しかし、既存の薬局が担うには報酬の問題、人員確保の問題など問題がたくさんある。理想論では、医師の処方遅滞なくスムーズに対応するにはこういった薬局があった方が薬局⇒患者にはスムーズに対応できると考える。

